



# ユネスコ エコパーク通信

## 綾町と宮崎大学は包括的連携に関する協定を締結しました！

綾町と国立大学法人宮崎大学は、包括的連携に関する協定を結び、その調印式を9月15日に行いました。

「包括的連携に関する協定」とは、自然・産業・教育・福祉などさまざまな分野で互いに協力し、地域の発展に寄与することを目的に結ぶものです。県内の町村でこの協定を結ぶのは、綾町が初めてです。

菅沼学長は、「綾町をテーマにした研究をさらに進めたい。また、来年度開設する地域資源創成学部と綾町の連携を推進していく」と今後の展開について述べられました。

前田町長は、ユネスコエコパークの町として発展するために、宮崎大学との連携を図りたいことや研究の場として積極的

に綾町を活用してほしいことなどを要望しました。綾町が研究教育機関とこのような協定を結ぶのは初めてのことです。宮崎大学との連携が今後のまちづくりに必要な力となるよう、さまざまな場面の展開を図っていきます。



## 第1回綾里ガイド養成講座を開催

綾の里地・里山を楽しむながら歩く「ひやらひやらつウォーク」の来年度の開始に向け、全4回行う綾里ガイド養成講座の1回目を10月3日に

実施しました。講師に古瀬浩史さん(帝京科学大学教授)を招き、ワークショップを通して、ストーリー性を持たせながら視覚に訴えて説明することの重要性を学びました。

また、ビオトープ「綾トープはっけんじま」を観察し、ガイドをする際に必要な教材について話し合ったり、「こんなガイドは嫌だ」というテーマで意見を出し合ったりしました。

第2回は12月ごろに「上畑」「宮原」「馬事公苑・綾城」の3コースから1〜2コースを選び、どの

ように案内するか考えながら歩く内容です。第2回以降の講座の参加希望者はユネスコエコパーク推進室にお申し込みください。

※「ひやらひやらつ」とは、連なっている様子を表す綾の方言です



## コラム マルタニシ

田んぼの泥の中に住んでいるマルタニシ。田んぼに住む貝の王様という意味で「田主」が「タニシ」になったと言われています。かつては貴重なタンパク源として食用にも使われていましたが、近年では、田んぼの整備や農薬の影響で数が少なくなっています。梅雨時期に自分の貝の中に卵を産んで、成長した子貝を直接産み出します。よく見かけ、赤い卵を産むジャンボタニシは、マルタニシのようにもともと日本にいるタニシの仲間とは全く異なる生き物です。

